

方法：妊娠初期 5～10週までの正常妊娠の胎芽～児，臍帯，絨毛組織18例，胎児を認め難かつた自然流産絨毛 8 例，部分奇胎 6 例，全奇胎 7 例それぞれのパラフィン切片について peroxidase-anti-peroxidase 法によつて各組織内の AFP 局在の有無を観察した。

成績：①正常妊娠の胎児では肝，腸管，臍帯膠様質部分は陽性，絨毛間質部も陽性，絨毛上皮部分は陰性であつた。②胎児部分を認め難かつた自然流産絨毛間質部は陽性であつた。③胎児及び臍帯などが認め難かつた部分奇胎の正常形態絨毛及び異常形態絨毛のいずれの間質部も陽性であつた。④全奇胎の間質部は陰性であつた。以上から胎芽（児）が一定期間生存していた場合は，胚外中胚葉由来の絨毛間質部は陽性であると推測された。

独創点：正常絨毛，また異常形態をしめすが，全奇胎以外の妊娠初期絨毛の間質部，及び絨毛間質部と同様に中胚葉由来と考えられる臍帯間質部などが AFP 陽性であり，全奇胎間質部のみが陰性であることを厳密にたしかめ，これを発生学的に考察し，全奇胎では胎児部分の発生が行われないと類推しえたこと。

質問 (広島大) 上田 克憲

母体血中 α -fetoprotein の測定を実施されていたら，その data をお教え下さい。

回答 (福島医大) 吉松 宣弘

母体血中の AFP 濃度に関しては，今回は検討していない。

質問 (国立呉病院) 岡本 悦治

部分奇胎について有核赤血球が全例認められたか，また全奇胎で有核赤血球が認められた例があつたか。

回答 (福島医大) 吉松 宣弘

有核赤血球は，正常妊娠絨毛の組織切片では認めたが，今回の検索では，部分奇胎，全奇胎の切片ともに，有核赤血球は認められなかつた。

217. ヘテロ奇胎の続発変化についての追跡検討

(福島医大)

佐藤 英二，荒木 壮，吉松 宣弘

本田 任，福島 務

目的：奇胎は，ほとんどが 46XX で雄性発生であり，その 10%内外が続発変化を起こすと考えられている。この続発変化の機構に関しては種々考慮されているが，最近の研究では恐らく奇胎遺伝子の接合が一部ヘテロ状態（ヘテロ奇胎）にあることが続発変化の一機構となつていゝとされている。このことに関してわれわれは自験例をもとに確かめようとした。

方法：昭和54年 7 月から58年 8 月までの 5 年間に材料の入手できた全奇胎は89例，この中充分な検討のできなかつた例を除いた全奇胎62例を対象とし，染色体多型分析，HLA 抗原分析などで細胞遺伝学的にヘテロ奇胎と同定されたもの 6 例について臨床経過を詳細に検討した。

成績：①全奇胎62例中，雄性発生が確かめられたものの20例，いずれとも判定できなかつたものの36例，46XY 奇胎 4 例，46XX ヘテロ奇胎 2 例，計 6 例のヘテロ奇胎を認めた。②46XY 奇胎 4 例中 2 例が臨床的侵入奇胎，46XX ヘテロ奇胎 2 例のうち 1 例が侵入奇胎，他の 1 例は臨床的侵入奇胎を続発したが，絨毛癌の発生は 1 例もみとめなかつた。これらヘテロ奇胎における続発変化率は66.7%であつた。③平均年齢は46XY 奇胎が 23.8 歳，46XX ヘテロ奇胎が 39.5 歳であり，症例数が少ないが，この間では年齢差がみとめられた。

独創点：多数の全奇胎を収集し，そのすべてを対象に細胞遺伝学的に分析を試み，その臨床経過を詳細に追跡検討したこと。これによりヘテロ奇胎に著明に続発変化が高いことを示しえたこと。

質問 (広島大) 大浜 紘三

① 46XX ヘテロ奇胎と46XY ヘテロ奇胎の発生機序は同一であるのに両群間に母体年齢差が存在するとすれば，その理由は如何に考えるべきか。

② 奇胎娩出後の続発変化率はヘテロ奇胎で高くなつてゐるが，いずれも存続絨毛症であり絨毛癌発生例は皆無である。奇胎の続発変化を論ずる場合最終的には絨毛癌発生を検討すべきと考えるが，絨毛癌発生に関してもヘテロ奇胎とホモ奇胎との間に相違があるのか。

回答 (福島医大) 佐藤 英二

① 年齢的因子に関しては，もつと症例数を増やさなければ不明である。

② 早期管理し，化学療法施行した為に絨毛癌や肺転移を示さなかつたのかもしれない。また絨毛癌に続発変化を示すものと異なるかもしれないが，少なくとも今回の我々の結果では，ヘテロ奇胎に高い頻度で続発変化を認め，化学療法を必要とした。

218. Microscopic mole の形態に関する研究

(近畿大)

伊藤 耕造，手島 研作，井上 泰英

松尾 陸美，野田起一郎

目的：日本産科婦人科学会絨腫委員会によれば，絨毛の嚢胞化が顕微鏡的に認識される場合を micros-